

経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県邑楽館林医療企業団 公立館林厚生病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ド 透 訓 ガ	救 臨 感 災 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	31,885	-	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
323	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	329
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
305	-	305

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の病院・ネットワークをききむ）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は邑楽館林地域の中核病院として、救急や急性期疾患の治療をはじめ、回復期リハビリテーションや地域包括ケアを行う病棟を備えており、急性期から在宅を見据えたりリハビリまで提供可能な体制を有している。さらに災害拠点病院として災害派遣医療チームの組織や、第二種感染症指定医療機関として感染症病棟を整備するなど、緊急事態に対して地域の安心・安全を確保する役割を担っている。

また、地域の中核病院として、地域の患者に対し適正な医療を継続して提供するため、病院等との連携を推進・強化する役割も有している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医療収益は前年度に比べ、患者数は減少したものの、⑤入院患者1人1日当たり収益、⑥外来患者1人1日当たり収益が微増した一定の改善がみられた。一方で、給与費の高水準のベースアップや、がん患者に対する高額な抗がん剤使用量の増加により、⑦職員給与費対医療収益比率、⑧材料費対医療収益比率は上昇した。その結果、医療収益は増収となったものの、医療費用の増加がそれを上回り、②医療収支比率は前年度より低下した。また、新型コロナウイルス感染症に係る補助金の終了に伴い、①経常収支比率も減少した。これらの影響により、⑨累積欠損金比率は増加したが、依然として全国平均は下回っている。

2. 老朽化の状況について

③1床当たり有形固定資産は、適正な除却を行ったことにより前年度と同水準を維持している。また、①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率は、引き続き全国平均を下回っている。

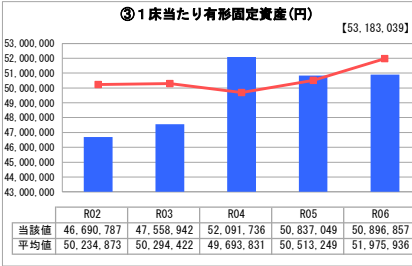
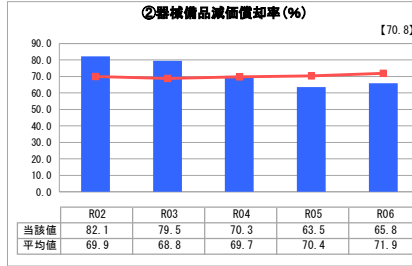
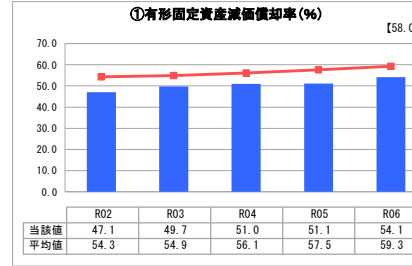
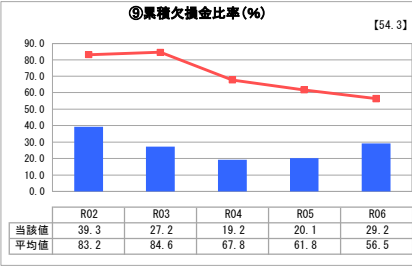
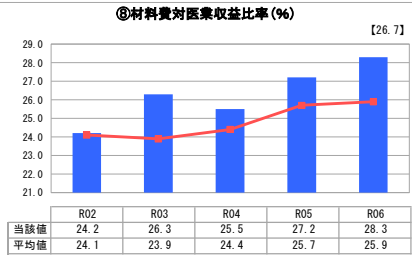
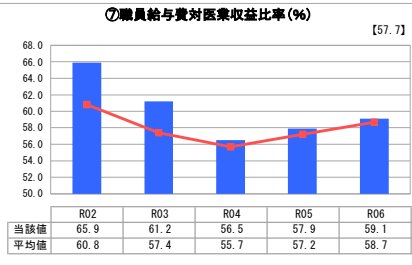
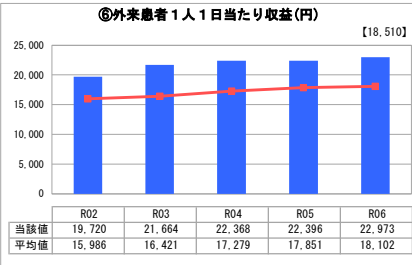
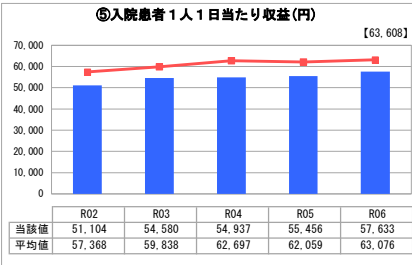
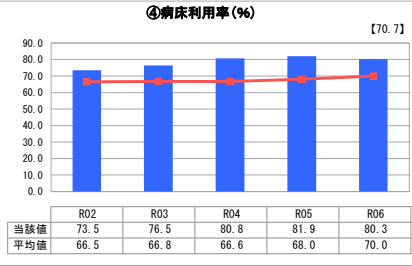
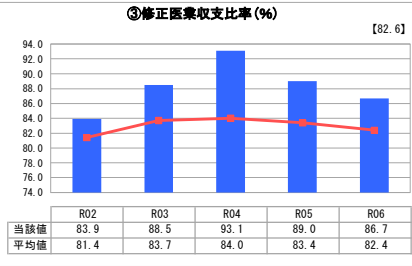
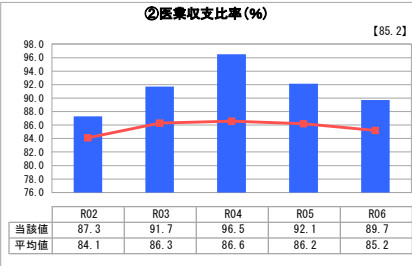
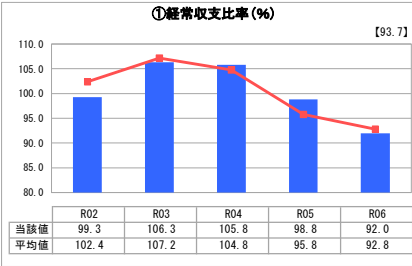
一方で、今後は経年による償却率の上昇や、老朽化に伴う修繕費の増加が見込まれる。これらを踏まえ、医療機器購入にあたっては地域の医療ニーズを考慮した計画的な更新を進め、効率的な設備投資を図ってきたい。

全体総括

医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある中、当院においては常勤医師の確保に努めるとともに、救急患者の受け入れ体制の強化や地域医療機関との連携促進を図り、患者数の確保と経営指標の改善に取り組んできた。しかしながら、近年の職員給与の上昇や物価高騰による医療費用の増加が経営に大きな影響を及ぼすなど、課題は継続しており、引き続き計画的かつ効率的な病院運営に努める必要がある。

また、公立病院として地域医療の充実を図ることが求められており、住民の多様な医療ニーズに対応するとともに、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟を活用した在宅復帰支援を推進し、地域完結型医療体制の構築に取り組んでいく。

1. 経営の健全性・効率性



※「1類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。